

すいた環境サポーター養成講座 第1回目

日時：8/30(木)18：30～20：30

場所：千里市民センター8階 多目的ルーム（2）

◆開講式

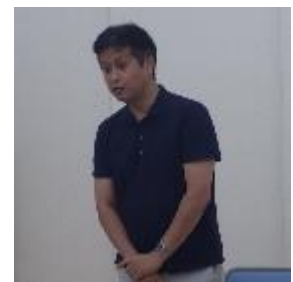
本日より環境教育の支援や地域での実践活動を担う、人材養成講座「すいた環境サポーター養成講座」が開講しました。

初めに吹田市環境部長中嶋勝宏さんの挨拶がありました。

吹田市の環境サポーターを養成してきた経緯や、これからサポーターになる人たちに期待することなどを、熱く語っていただきました。

私たちが環境行動を変えるよう、このことを広められるよう、講座を通じて学び活動していきたいと、志を新たにしました。

本講の目的と概説、受講方法等の説明などの、オリエンテーションをすませ、実習に入りました。



◆アイスブレイク（スキル）

・検脈あいさつ

安静時の脈拍を測ってから、2分間で2人以上と知り合いになり、その後もう一度脈拍を測りました。初めて知り合った人と挨拶をすることで親近感が増し、胸がときめいたりします。どれくらい胸がときめいたかを再び脈拍を測り、参加者に実感してもらうことで、アイスブレイクの効果を体験しました。その効果とは参加者の緊張を解き、場の雰囲気をやかに学びやすくする効果があります。



・後だしじゃんけん（勝ってみる、あいこにする、負けてみる）

「勝つ」ことを意識せずやること、後だしでじゃんけんするのに「負ける」ことの難しさを体験しました。なぜなら、勝つための学習経験があっても負けたり、相手をおまかせに受けとめる学習経験が一般的に少ないからです。色々な人々と連携していくときに、自分の「当たり前」になっている価値観に気づき、色々な価値観を大切にすることも学びました。



・以心伝心

グループ全員の両腕の数はグループ人数の 2 倍となります。その数を最大値として決めます。各人の腕を挙手して、ある数を作ります。但し、グループ全員は目を閉じてもらいますので、だれが挙手しているのかわかりません。だから簡単に講師から言われた数値を作れません。両腕を挙げるべきか、挙げないべきか、又は片腕だけ挙げるかは各人の判断となります。ここで各参加者はゲームの目的をグループ内で共有していても、それを達成する手段や考え方はそれぞれ違うことを学びます。このことから、外見上、積極的とは思えないこと（受容性）の意義(他を活かすため、自身はあえて消極的になり、他を受け止めることの意義)について、学びました。



◆ふりかえり

講習の最後には、ふりかえりをおこないます。一人一人が講習での「気づき」を認識し、それが環境行動にどのように役に立つかなどをグループ内で共有しながら振り返る時間です。

アイスブレイクとは何かを考える個人でのふりかえりと、グループでのふりかえりを行い、終了しました。